

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 神流町農泊事業推進協議会

令和4年11月21日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
群馬県 神流町	令和元年度	「農泊」を地域の産業として自立させてゆくため、地域資源(川、山、旧集落、景観、一次産業産品、史跡文化)や人的資源をも滞在商品として磨き上げ、滞在プログラムの確立とバックエンド商品の造成、地域住民が一体となった連携による受入体制の整備を推進する。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考慮して活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- ・コロナ禍において神流町は高齢者が多いことから規制緩和に慎重であり、イベントの実施が難しかった。
- ・神流町の一大イベントである「鯉のぼり祭り」は、コロナ禍で今年度も開催できなかった。
- ・令和3年度は、協議会及び関係者において急な退職が続き、事業実施に影響があった。
- ・事業実施に遅延が生じ、何とか令和4年2月にモニターツアーを実施したが、期間内の目標達成には至らなかった。
- ・地道ではあるが、交付金事業の実施により少しずつ町の力になっている実感はある。

3. 目標達成に向けた方策

- ・将来的には、月(季節)ごとに体験プログラムを作成・実施し、実施場所を民泊施設とする等により宿泊にも繋げていく。
- ・畑体験と宿泊を組み合わせたプログラムや地域の川でのテントサウナ体験を検討している。
- ・新たに民宿を始めたい相談が1件あり、事業者と連携の上検討中である。
- ・現時点では公共交通機関での来訪が難しいので、バスツアー等も検討していく。

4. 改善状況

- ・こんにゃく作り、山歩きツアー、木こり体験、つつこ(ホウ・栃の葉に餅米を包む)作り等、体験プログラムを実施している。近隣市町村にチラシを配布しており、参加者は神流町や近隣市町村の住民が多い。
- ・近隣の大学等と連携し、取組を検討し、人材の採用にも繋げている。
- ・落石により2、3年前から通行禁止となっていたルートが最近再開した。
- ・キャンプ場において、地域の農産物を使用したバーベキューセットを提供しているが、現時点10件弱の購入に留まっている。
- ・令和4年11月13日に3年ぶりのトレイルランニングを開催し、その前後にも試走に訪れるランナーが現れたり、集客に繋がった。
- ・令和4年9月に近隣市町村と連携し、ダムカードスタンプラリーを行った結果、コアなファンに好評であった。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 芝山農泊推進協議会

令和5年1月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
千葉県 芝山町	令和元年度	町の農業を未来に繋げる為に、農泊事業を新たなビジネスモデルとして展開し農産物の消費や農家の所得確保へと波及することで新規農業者の確保・定着を目指す。	古民家を改修したレストランで、感染対策を講じながら、地元の食材を使用したメニューを提供している。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- ・地域が空港に近いということで、インバウンドをターゲットとしていたが、入国制限等、コロナ感染拡大の影響を大きく受けた。
- ・台風15号及びコロナ禍による説明会の中止や、月一度の体験プログラムに外部の参加者が参加せずメンバーが固定化されるなど、活動に広がりなかった。
- ・コロナ禍で体験を受け入れる農家も少なく、近郊からの集客を行ったが、低調に推移した。
- ・インバウンド客を取り込むバス会社がコロナで営業停止状態が続き、集客が出来なかった。
- ・行政と両輪で、とスタートしたが、行政(担当の企画課)との連携が上手くいかなかった。
- ・宿泊施設が少ないことや資金面において、町との連携は必須であると考えている。
- ・町以外との構成員との連携について、バス会社とは連携している。飲食事業者との連携は2~3か所にとどまっている。

3. 目標達成に向けた方策

- ・農家から農泊事業への理解を得るため、PR活動を強化していく。参加者は男性が主であったが、奥様方に参加を促していくために奥様向けの説明会を実施している。
- ・NEALリーダー(自然体験活動指導者)の講習を受けた案内人を50人程度招聘し、コーディネーターとなってもらう取組をしている。
- ・インバウンド客に向けての情報発信強化(各種SNS)を活用し、外国語対応をしている。また、ホームページも外国人向けに刷新した。
- ・外国人には入国直後、日本人には出国直前に、日本の田舎風景を空港の近くで体験できることをPRし、外国人の比率を2割高めたい。

4. 改善状況

- ・町長が12月に替わり、協議会の理事となったため、推進体制の強化を期待している。
- ・協力体制(町、町民、議員)の理解度を高めるため、引き続き説明をしていく。
- ・入国制限(水際対策)が緩和されたら数字は上向くと思う。
- ・農泊宿舎には、2月より常駐者を配置し平日も稼働することにより、集客拡大を計画している。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 檜原村森林サービス推進協議会

令和5年1月20日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
東京都 檜原村	令和元年度	更なる森林サービスの振興に取り組むため、檜原村森林サービス推進協議会の強化を行い、檜原村の豊かな自然環境を活用した農泊を実施するとともに森林サービスを担う人材育成を図る。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

交付金を活用し、宿泊×体験(林業)×食事の森林サービスを提供すべく準備を進めていたが、コロナの感染拡大により宿泊施設候補であった一軒家貸しが運営を休止し、また、体験・食事についても多くの人を集め実施することが困難となった。しかしながら、協議会においては、東京チェーンソー所有林内をキャンプ場として運営すべく、準備を進め、2021年10月よりMOKKI株式会社が設立され、所有林および村内森林内を会員制のキャンプ場として宿泊事業をスタートし、昨年には、檜原村森林サービス推進協議会に入会した。

3. 目標達成に向けた方策

現状においても、森林サービス推進協議会構成員各社において、宿泊×体験×食事などを組み合わせた森林サービスを提供している。今後は、構成員同士の定期的な報告会や協議会でのプログラム実施などを行い、村内でのサービスの拡充を図ることで目標達成を目指す。

4. 改善状況

現状においてもMOKKI株式会社において、企業研修や、都市在住者の体験×宿泊を行っている。今年、春からは、都市在住者が森の整備および果実や野菜の栽培、収穫を実施し、宿泊も可能なフードフォレストプログラムもスタート予定であり、現在、整備や広告の作成など準備を進めている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: (株)コ・ファーマーミング新所

令和4年12月1日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
静岡県 湖西市	令和元年度	—	浜名湖の水辺の魅力を活かした環境で、農水産物の加工体験を提供し、体験者などを通じて、海の幸、里の幸の加工品をインビテーションカードとして都会に届け、来訪者を増やしていくことを目指し、加工体験施設の整備を行い、加工設備を活用して農産物加工品を開発した。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- 総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- 新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、リスク管理(代替案等)を考えて活用してほしい。
- 地域に根ざした定着的な取り組みとなるよう、低調な評価のまま終わるのではなく、活動の良いところを見つけて具体的な取組ができればよい。
- 貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- 今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- 地域性として現在営農している農家が少なく、山間、兼業農家が多い地域で観光コンテンツもない中、農泊ブームの中で飛びつき高い目標を設定してしまった。
- 観光コンテンツともタグを組んでないため体験、移住を目的にしないと体制維持が難しい。
- 観光客からの農業体験は料金を徴収していないため、収益が少ない。
- 当初計画していた古民家宿泊ができなくなり、あさりの不作もあり漁師廃業も増加、食材不足もあった。

3. 目標達成に向けた方策

- 東京都にある企業が、新居の古民家にサテライトを設置し、カフェでの食材の提供。
- 第2のふるさととして位置付けるところを求めていく。
- 地元企業と連携して、宿泊に呼び込んでいく。
- 各種ツールを活用して、労働力を確保していき、人を呼び込む。
- 観光コンテンツをもった他地域と差別化を図っていく。
- 工場勤めをする人への兼業農家の呼び込みをしていく。
- 営農と貸農園をわけて考え観光客向けに考えていく。

4. 改善状況

- 親子の水辺イベントやハゼの焼き干しなどの体験により、人を呼べるようにしている。
- アルバイトのマッチングサイトを活用し、人材を採用している。
- 芋ほりの合間にSUP体験などのレジャーとの組み合わせで、リピーターを増やしていく。
- 観光ではなく、移住を前提に動いていく。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 寄居オーガニックカウンスル

令和4年11月21日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
埼玉県 寄居町	令和2年度	農泊・農業体験等に関するセミナー等を開催し、農泊・農業体験等の目的・効果を理解していただくとともに、生産者が抵抗を感じるであろう部分を解消し、商品化を促進するとともに、情報発信・販売を行っていくことを目的とする。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- ・コロナ禍において、寄居町は規制緩和に慎重であることから、事業の実施が難しかった。
- ・農家においても、高齢者が多く、農業体験の受入を避ける動きがあった。
- ・地道な活動をしていたが、目標達成が年度内に間に合わなかった。
- ・関係事業者において、本業との両立が難しかった。
- ・寄居町においては、日帰りが多く、移住・ワーケーションまでなかなか結びつかない。

3. 目標達成に向けた方策

- ・宿泊施設は少ないが、交流人口は増加していることから、農業生産活動と結び付けていきたい。
- ・寄居町や近隣の企業と連携し、南寄居駅における有機農産物や加工品の販売といった取組を実施した。
- ・令和4年10月に深谷花園プレミアムアウトレットが開業したが、現時点では寄居町への集客増加には繋がっていない。現在はアウトレットのみを目的とする人が多いと思うが、今後、「アウトレット+近隣観光」という行動が出てくることに期待したい。
- ・農泊事業でホームページを作成したが、より多くの方にPRするため、SNSを活用したい。
- ・古民家に畑を併設し、加工施設及びカフェを設置し、マルシェの実施を検討している。

4. 改善状況

- ・令和4年8月にゲストハウスが開業し、1週間に10人程度の受入を実施している。
- ・芸作家(ドイツ人2名、日本人1名)の長期滞在等、リピーターも発生している。
- ・ネットワークを拡大し、女性活用にも努めている。
- ・令和4年10月6日・7日に里山文化祭を開催し、ワークショップやスタンプラリーを実施したところ、好評であった。
- ・引き続き商工会、地元企業及び関係事業者と連携し、寄居ブランド提供の場を拡大したい。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 東庄未来協議会

令和5年3月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
千葉県 東庄町	令和2年度	地域一体となって、東庄の地域資源を活かした農泊を推進し、地域の自然や歴史・文化に根差した地域おこしを図ることを目的とする。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- ・協議会として、意思決定のプロセスが不透明。
- ・農山漁村振興交付金について十分に理解をしていなかった。
- ・事業の大部分を外部に委託しており、協議会の取組といえるものが少ない。

3. 目標達成に向けた方策

- ・定期的に協議会内での会合を実施する。
- ・協議会で実施できる活動は、自らの活動として実施する。

4. 改善状況

- ・地元活動を中心にできる活動に計画を変更。
- ・東庄町との連携を一層深めている。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: かけがわ栗ヶ岳山麓農泊推進協議会

令和4年11月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
静岡県 掛川市	令和2年度	当地の自然環境や人々の生活文化が、現代社会の人々にとっていかに大事で有用であるかを農泊事業を通じて、国内外に広く訴求していくとともに、その活動を持続可能にすることにより、茶畑が広がる美しい景観、そこに暮らす人々の叙情や文化を継承し、都市と里山が支え合うことによる新しい循環型社会を目指す取組。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

<ul style="list-style-type: none"> 総合的に事業実施の成果は低調と認められる。 新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、リスク管理(代替案等)を考えて活用してほしい。 地域に根ざした定着的な取り組みとなるよう、低調な評価のまま終えるのではなく、活動の良いところを見つけて具体的な取組ができればよい。 貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。 今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、令和2年度に比べてコロナの蔓延が長期化し、またGOTOなどの支援策も少なかった。また、客数が個人客にとどまり、3割程度の入りであった。 当該地域は、観光産業がまったくなく、倉真・東山地域に里山体験をさせたが、滞在者の受入、世話について想定以下であった。 他人を泊める強いアレルギーの地域性がある。 3件温泉施設、体験施設があるが、まだまだ観光には結びつかなかった。 令和3年度は、プロモーション・ツアーがまったくできなかった。 栗ヶ岳の登山客の呼び込みまでできていない。

3. 目標達成に向けた方策

<ul style="list-style-type: none"> ファミトリップを実施していく。ただし、即効性はないと考えられるため、まず旅行会社の人に来てもらい、地域の魅力を発信していく(個人、大口についても同じ) オンライン商談会への参加、SDGsを学べる教育旅行を実施している。 市に令和4年6月より協議会の監査役となってもらった。 この場所に来てもらい、好きになってもらうために体験メニューについて日帰りでおこなってもらう。 商談会では「農業遺産」の体験を強く打ち出す。 農泊につながるアプローチとして、日帰りで団体客をとりたい。

4. 改善状況

<ul style="list-style-type: none"> コロナ中の取組として、宿泊場所がないため、茶摘み体験をしてもらい、市内にあるホテルなどと連携して、教育旅行を受け入れている。1回当たり180人程度の日帰り教育旅行は受入対応済み 週末の受入人数は増加
--

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 島地区農泊推進協議会

令和5年3月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
千葉県 多古町	令和3年度	多古町及び島地区にて、農泊事業の充実で関係人口や移住者を増やすための施策及び農泊施設を開業しやすいようなプログラムを実施した。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- ・中核法人が、委託先に依頼している内容について確認が不十分であったため、実績について十分に把握できていなかった。
- ・協議会、委託先等構成員メンバーについて整理できておらず、それぞれの体制が不十分であった。
- ・農山漁村振興交付金の仕組みについて理解不足であった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・総会等開催し、意見交換を十分に諮る。
- ・協議会で書類の保管をし、検査体制を強化した。

4. 改善状況

- ・協議会自体で作業を内製化し、可能な限り委託を減らし、協議会の取り組みを増やす。
- ・協議会のコミュニケーションを活発にし、協議会を積極的に活用する。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 三浦市地場産品消費拡大協議会

令和5年3月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
神奈川県 三浦市	令和3年度	三浦市内の既存の地場産品と農漁業体験を組み合わせることで新たな付加価値を創造し、新たな観光コンテンツとして開発し、事業を通じて商品造成のための体制づくり、宿泊の促進、回遊性へ取り組んでいる。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

- ・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
- ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
- ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
- ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

- ・仕組づくりやPRに軸足を置いた事業展開に終わってしまった。
- ・誘客に向けたプロモーションがサイトへの記事掲載へと変更する等十分準備ができなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の影響を受けた。

3. 目標達成に向けた方策

- ・令和4年度については、新たに体験プログラムや物販販売アイテムを活用したツアーの造成を主たる目標とした。
- ・ツアーにかかわる市内の体験事業者、宿泊事業者、物販・飲食事業者が潤う仕掛けを新たに実施。
- ・令和5年度に向けては、三浦市観光協会に内製化(WEB、物販サイト)を計画。

4. 改善状況

- ・事業主体の中核メンバーである三浦市観光協会が運転資金の調達を行う計画とする。
- ・三浦市地場産品消費拡大協議会が主催する取組を柱とする。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 河口湖農泊推進協議会

令和5年1月25日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
山梨県 富士河口湖町	令和3年度	本事業は、富士河口湖町において、「日本一の富士山を誇るインバウンド目的地から日本一のマイクロツーリズム目的地へ」を合言葉に、観光事業者・農業者・行政等が連携し、富士河口湖町の自然・農業資源・歴史・文化等を基盤としたwithコロナ時代の新たなマイクロツーリズムの戦略及び推進体制を構築することを目的としている。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
 ・新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、代替案等(リスク管理)を考えて活動すべき。
 ・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講ずること。
 ・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに関東農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

・宿泊体験プランセットにしていた体験(農業体験・ワインテイastingやお茶のおもてなし)を実施できなかった。
 ・講師となる農家、ソムリエがコロナウィルスの影響で外部からのお客様を受け入れていなかったため、宿泊体験セットプランを積極的に販売することはできなかった。
 ・令和3年度は準備の年であり、実施可能な講師による食の講習会を積極的に行い、日本茶に合うお菓子の開発、コンセプトである「河口湖暮らし」のブランディングに力をいれたが、1年目の事業の開始時期が遅く(10月)、計画自体が全て遅れた。
 ・コロナ禍でワインの体験を前面に出せなかった。
 ・お茶のおもてなしを当初入れていなかった。売上を出すことが目的でなく、作り込む(実証実験)時期という計画であった。
 ・冬は農家がストップしてしまうので、ワイン・アフタヌーンティーを計画していたが、昨年度はコロナで実施が難しかった。

3. 目標達成に向けた方策

・宿泊体験セットプランに代わる売上を作っていくために、旅の駅を利用して、体験だけでなく、骨董や古着、地域の方の手作り品など暮らしにまつわる商品の販売を開始。お茶や紅茶の体験に開発した「河口湖暮らしケーキ」を取り入れて、冬の時期を充実させる工夫をしていく。
 ・宿泊施設や町の協力が得られている。
 ・「河口湖暮らし」をコンセプトにした商品(骨董・古着・手作りアクセサリー・地域の作家クラフト展など)を増やし、河口湖ならではの商品をセレクトし、ECサイトで販売している。また、地元の作家が商品の開発を自発的に行っており、旅の駅での販売から開始している。

4. 改善状況

・令和4年度は旅の駅(6月オープン)での体験スペースでの取組(販売+体験)に追われる一年だった。最近客が増えた。連携ホテルでアフタヌーンティーを計画しており、2月に実施予定。ただし、宿泊しながらでなく、体験のみが多い。
 ・2月に実験的に行われる宿泊体験セットプランの準備をしている。河口湖のホテル初のアフタヌーンティー体験になる。宿泊されないお客様にもご利用頂けるように宣伝を行っている。
 ・出張して、体験を実施できる取組ができていく(体験:お茶のおもてなし・アフタヌーンティー・漆のアクセサリー作り体験)。
 ・タイからの客がお茶の体験、着物体験を行う予定がある。
 ・広報として、まずはフォロワー増加のため、Instagram(ストーリー)での情報発信をしている。
 ・メニュー、パンフレットの作成を通じて、農泊の取組を構築しつつある。

農山漁村振興交付金(農泊推進対策) 重点指導結果

事業実施主体名: 浜松・三ヶ日みかんの里協議会

令和4年12月1日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
静岡県 浜松市	令和3年度	「農」「湖」「食」「泊」の三ヶ日地域の資源を組み合わせた質の高い滞在プログラムを拡充することで、農泊を通じた交流人口の拡大を図り、三ヶ日の地域産業に携わる事業者の生産の拡大・所得の向上および地域の活性化につなげる。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、リスク管理(代替案等)を考えて活用してほしい。
地域に根ざした定着的な取り組みとなるよう、低調な評価のまま終えるのではなく、活動の良いところを見つけて具体的な取組ができればよい。
・貴団体において、目標の達成状況が低調となった要因を分析し、課題を明確にした上で、それに応じた具体的な対策を講じること。
・今後、改善にあたって課題等が生じた場合は、速やかに農政局に相談すること。

2. 低調と評価された要因

・協議会が、提供できる各種体験メニューが販売できなかった。
・各種体験メニューが、予定通り進まない中、準備が遅れてしまった。
・運営会議の内容が、進捗管理でとどまっておき、実施飲食店、商店の中で話が完結していた。
・当初計画していた未利用魚(小さいもの、値段がつかないもの)の活用ができなかった。

3. 目標達成に向けた方策

・旧来の観光協会の自転車だと、古く坂の上り下りが難しいので、電動自転車を観光に活用していく話を連携企業に持ち掛けている。他市町村での実証実験を三ヶ日町に反映できたらよいと思っている。また、反映段階で地域の現状を再発見できると思う。
・協議会の打合せにDMO組織にも参加いただいている。

4. 改善状況

・ミカン狩りなどの体験メニューを実施している。
・協議会メンバーでない者にも地域座談会に参加していただき、1つにまとめようとしている。
・未利用魚から魚醬をつくり販売、もしくはサンプルを作って試食していく。
・伝統漁法体験をしよう。

事業実施主体名:特定非営利活動法人千葉県障害者就労事業振興センター

令和4年11月17日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※)	取組概要(※)
千葉県 千葉市	令和2年度	農福連携支援事業	農業者から施設外就労の依頼や施設内での作業が出来るような作業請負のサポーターを募集し、農業者と福祉事業所をつなぐ「サポーター」として育成する。農業と福祉両方の事業に精通し、互いが理解出来るよう双方に助言、支援できるサポーターにより、障がい者の農業における雇用の機会を推進する。

※ 事業名や主たる取組名を記載すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

総合的に事業実施の成果は低調と認められる。
新型コロナウイルスによる外的要因が影響するようになり、活動のリスクが高くなっているが、リスク管理(代替案等)を考えて活用してほしい。
地域に根ざした定着的な取り組みとなるよう、低調な評価のまま終えるのではなく、活動の良いところを見つけて具体的な取組ができればよい。

2. 低調と評価された要因

新型コロナウイルスの影響により計画していた農福連携サポーター養成講座は実施できなかった。作業請負先が新型コロナウイルスの影響で施設外への就労ができず、サポーター派遣事業については、計画より大幅な減となった。人材育成目標に対しては、達成率50%となったが、雇用及び就労については達成率0%の実績となった。実施体制は、千葉県農福連携プロジェクトや、福祉事業所などとの連携体制を構築したが、取組状況、雇用及び就労が基準に満たず事業実績はC評価である。

3. 目標達成に向けた方策

サポーター派遣件数を増やして、農福のマッチングを進めていくため、お試し農福を実施したい農家がいる場合、対応できる事業所がないなどの課題があることから、福祉事務所側の需要の掘り起こしとして、実施の農福連携の現場での、福祉事業所等にむけた見学会を実施したり、福祉事務所側の理解を深めるための研修会等の開始、他地域の事例などの紹介を積極的に行っていく。また、農業者側の要望やマッチングを進めていくためにも、福祉側と農業側の知識をもったサポーターを増やしていく。
新たな雇用につなげるため、福祉事業所の就労移行支援事業所とも連携を強化し、農家とのマッチングを図っていく。

4. 改善状況

取り組みを推進していくため、令和4年度に、新規で専門の職員を採用し、他地域のマッチングの取り組みなどの情報収集を進めていく。また、福祉事業所への農福理解を進めるための研修等の情報発信を積極的に行っている。